は、小さい頃から見ている当たり前の風景で、ハイカラだとか、モダンだと思っている人はまずいないと思います。その中で、こういう点がモダンに感じるという具体的なものはありますか。

立川さん　例えば、夜の港にフェリーが停まっている景色って、フェリーニっていう有名な監督の映画「アマルコルド」に出てくる港のシーンにそっくりなんです。僕は初めてその景色を見たときに、すっごくかっこいいと思いましたね。あそこに、港に向かっておしゃれなバーやレストランがあって、適度に音楽が流れていたら、もう最高です。

市長　あの辺りは、前島の潮路プラザというのですが、あそこを多くの人でにぎわう憩いの場として開発するというのは、方向性としてはどうですか。

立川さん　すごくいいと思います。やさんがいた街ということで、ハイカラでモダンなものがたくさん残っていて、いい意味でバタ臭さがある。それがすごく魅力があります。

市長　地元の人にとってはり舞鶴はモダンな街ですから、和と洋をどのくらいうまくブレンドしたものをそこに作るかが重要なポイントだと思います。当たり前の建物を建ててしまったら身もふたもないですから。まちづくりって、映画を作るようなものだと思うんですよね。例えば、あそこ（前島）にものすごくロマンティックなシチュエーションの、映画のセットのような空間を作るとして、それを普通のコンサルとかではなくて、映画監督や美術の人たちが基礎を考えて、それを行政や市民が話し合って作るくらいのほうが、舞鶴には夢のあるものが作れると僕は思います。

将来の舞鶴

市長　なるほど、素敵ですね。そんな中で、今、赤れんがパークを舞鶴に来ていただくための目玉スポットと位置付けて、ブランディング機構に知恵をいただいているところなんですが、その使い方も含めて、今後こんな風にしていったらいいんじゃないかというイメージは何か持っておられますか。

立川さん　赤れんがパークのあのエリアはとてもすばらしいと思うんです。お世辞ではなくて「宝の山」だと思っています。それなのにいつ行ってもすごく遊んでいる（持て余している）じゃないですか（笑）。せっかくあんなにいい場所があるのに、もったいない。あそこに行けば昼夜を問わず楽しいことがだいたい全部あって、ちょっと文化の匂いにも触れられる場所というふうに考えるエリアとしてはすごくいいと思います。

市長　そういったイメージを定着させる必要があるということですよね。

その点では、まさに今、赤れんがパークをひとつの出発点として、交流人口を増やそうだとか、いろいろなまちづくりのひとつの起爆剤にしようと思っているんですけど、そういう可能性は大いにあるということですよね。

立川さん　あります、あります。ものすごくあります。でも、待っていても始まりませんから、どういう風にやるかですよね。今回、舞鶴に来て、いろんなことをさせていただいて思ったんですけど、舞鶴にいる若い人たちと会ってみたいです。若い子がいないのかと思ったらそうではなくて、まちに行くといる所にはいるんですよね。若い子たちが何を求めているのか、もし、赤れんがパークを自由に使えるとしたら何がやってみたいのかが知りたいです。若い人と、ある程度お年をめされた人でもコラボレーションすることができる場所っていうのがここ、赤れんがパークにはあるということが非常に重要だと思います。

市長　まさに若い世代も巻き込んで芸術に触れあう環境を作らなければいけないということですね。

我々も、ブランディング機構の手助けを受けながら、あのエリアを活性化の拠点にしようと動き始めて2年目になります。これからも、プロの人たちのご意見を伺いながら、地元の人たちを巻き込んで、だんだんとその輪を広げていきたいと思います。市役所の既成の概念をぶち破って、いかに市民や観光客に来ていただけるような工夫をしなければならないかということですよね。

立川さん　絶対にそうですね。あと、今日、市長にお目にかかったらお伝えしたいことがあったんです。実は、ぜひやっていただきたいことがあるんです。「海軍割烹術参考書」ってあるじゃないですか。あの本の、最初のページから最後のページに載っている料理を市長に再現してほしいんです。それで、赤れんがパークでロングテーブルにキャンドルを灯して昔の雰囲気で、市長主催の晩さん会なんかをしたら、絶対面白いと思います。旧軍港都市の市長が海軍料理書を再現する、絶対すごい話題になりますよ。

市長　検討させていただきます。

立川さん　絶対当たると思いますよ(笑)

市長　今後のいろいろな方向性といいますか、赤れんがパークの活用も含めまして、またぜひ、このお話の続きを。

立川さん　はい。今度ぜひ、また。

市長　本日はありがとうございました。

プロフィール
立川 直樹（たちかわ なおき）
1949 年、東京都生まれ。
音楽、映画、美術、舞台など幅広いジャンルにおいて世界で活躍するプロデューサー兼ディレクター。
1970 年に、ザ・タイガースの野外コンサート（舞台美術）で業界デビュー。音楽監督として、映画「マルサの女」や「悲情城市」（ベネツィア国際映画祭金獅子賞受賞）などで活躍する傍ら、著書「父から子へ伝える名ロック 100」（祥伝社、2007 年）、「TOKYO 1969」（日本経済新聞社、2009 年）などを多数発刊。
現在、舞鶴市で赤れんがパークの鋤田正義写真展や TAO の野外コンサートのプロデューサーとして関わっている。

立川直樹プロデュース

DRUM TAO 赤れんがパーク特別野外公演

和太鼓を使った革新的なドラムパフォーマンスで、観る者を惹きつけてやまない和太鼓エンターテインメント集団「TAO」が、赤れんがパークを舞台に１日だけの特別野外公演を行います。
当日 14 時からは、赤れんがパークが TAO PARK に変身。和太鼓のワークショップなどの催しが行われます。
世界 20 か国 400 都市で 600 万人を動員した TAO の圧巻のパフォーマンスと、国の重要文化財「赤れんがパーク」の夢のコラボレーションを体感してください。

【日時】
８月９日㈯ 19 時～ 21 時（18 時開場）
【場所】
舞鶴赤れんがパーク
【料金】
◇**一般**…5,000 円（前売りは 4,500 円）
◇**高校生以下**…2,500 円
◇**団体**…3,500 円
（20 人以上、赤れんがパークでのみ販売）
【チケット購入場所】
赤れんがパーク、総合文化会館、市民会館、ローソンチケット、北近畿の各プレイガイド

【問い合わせ先】
DRUM TAO 赤れんがパーク特別野外公演実行委員会事務局（赤れんがパーク内、☎ 66・1096）